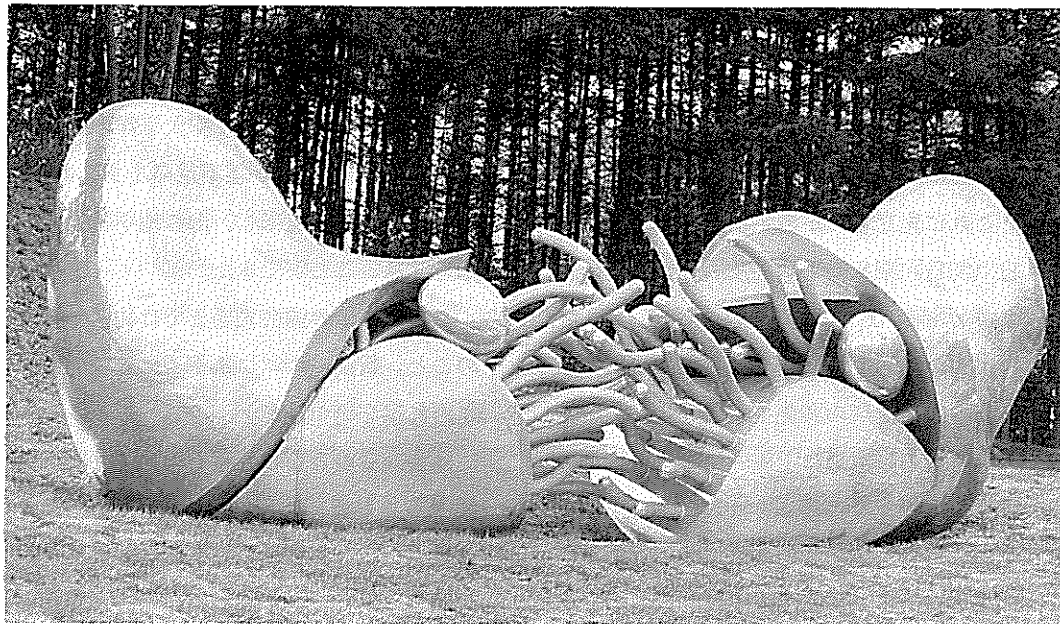


岩手郡医報

平成5年10月 No42
 編集 発行
 岩手郡医師会
 題字 雫石町高橋孝先生



石神の丘美術館（岩手町）

岩手町五日市地内の自然の地形を利用した丘陵地にこのほど完成した野外彫刻公園「石神の丘美術館」が7月初めオープンした。

総面積は16万3272㎡、総事業費約16億円をかけてつくられ、一巡に要する時間は約1時間半かかる。水と彫刻、花と彫刻、森と彫刻、太陽と彫刻、空と彫刻の5つのゾーンに分けられ、散策の道、眺望の広場などでは四季折々の花や樹木が楽しめるほか、ある一定のポイントからは岩手山、姫神山も眺望できる。

日本を代表する新進作家より借り上げた大作40点と、国民文化祭石彫展の公募作品の中から優秀作10点が選ばれ、永久展示されている。

(M. S記)

目次	
石神の丘美術館……………	1
第45回県医師会親睦野球大会 釜石大会印象記 嶋 信…………	2～4
第27回県医師会親睦ゴルフ大会…………	5
報告 平成5年度 郡市医師会広報委員 いわて医報編集委員・健康教育委員合同協議会…	6
平成5年度岩手郡地区学校保健会研修会案内…	6
小野寺素行先生に捧ぐ……………	7
今日の話から 期末ケアの充実…………	8
第二回圭陵会岩手郡支部総会……………	9
岩手郡医師会役員会……………	9
会員の入会・退会……………	10
編集後記……………	10

第45回県医師会親睦野球大会

釜石大会印象記

嶋 信

恒例の真夏の野球大会として第45回目を迎えました県医師会親睦野球大会は、本年は三陸の釜石医師会の担当で、釜石市平田公園野球場を中心に市内8ヶ所の会場を使用して8月29日に開催された。

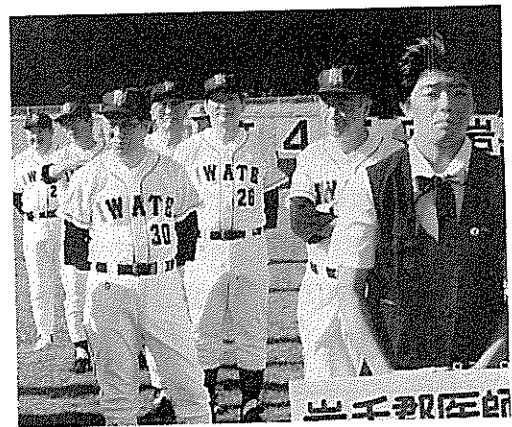
これに先立ちわが岩手郡チーム一行は、前日(28日)東八幡平病院及川院長の御好意によりマイクロバスをチャーターしていただき、高橋会長宅より、会長、佐藤、三善、西島、及川、嶋、上原の各先生が乗り込んで出発した。本日の宿泊地は上原先生の紹介による大槌町吉里吉里浪板海岸そばの「さんずろ家」という民宿を予約してある。そのためコースの選定としては国道106号線川井村より小国部落を通り、土坂峠を抜け、大槌町金沢に出るコースが選ばれた。車内の先生達は初めて通る道路にどんなの中を通っていくのか不安をいだきつつ進んだ。このコースは川井村より遠野方面に向かう国道340号線ではあるが、土曜の午後でもあり、対向車も殆ど少ない山道で快適なドライブであった。大槌町金沢部落付近に入ってから、大分前の風雨による土砂崩れ現場があり、未だ不通の箇所もあったが迂回路もあり現地大槌町吉里吉里浪板に到着したのが午後6時前で、約2時間30分程かかった。早速6時より明日の作戦戦略を練るべくお互いの意見交換の宴会となった。直接現地へかけつけた佐々木、高橋(克)先生も加わって賑やかに行われた。途中、地元釜石医師会よりお酒、大槌町開業医(小児科—ここを紹介してくれた先生)の藤井先生の高級ワイン、高橋会長の元職員で近隣に嫁いだ方及び及川先生のハム仲間(釜石市内

在住)など多数の差入れを御馳走になり、海の幸で満腹になりながら、夜遅くまで続いた。

寝室の窓を開ければすぐ太平洋の海原の潮騒が聞かれ、いささか寝不足のまま朝を迎え、普段よりも早く起床し、海の地平線からの御来光を見ることができた。

釜石市平田の開会式会場までは約30分前後とのこと。新調のユニフォームに着替えたまま早めに宿を発つ。

開会式会場となった釜石市市営平田運動公園グラウンドは、両翼95m中堅120mの国道45号線沿いにみられる最近新装なったスタンド付球場であり、選手入場前に釜石名物虎舞を地元錦町若連によりバックネット前で演奏され、その間選手は外野バックスクリーン前に



センター前に集し開会式を待つ岩手郡選手

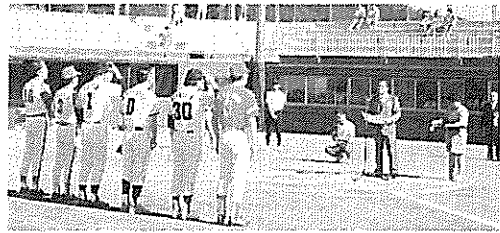
整列し(例年にない方法)地元中学生のブラスパンド隊の奏でる行進曲に合わせてグラウンド中央まで入場行進する方法となった。

約10年振りに今まで夏の大会にはそぐわない(?)厚い生地の上が濃紺、下がグレーのユニフォームから今シーズンよりプロ野球読売ジャイアンツ(ホームチーム用)並みの

後ろにローマ字の名前入りの新調したメッシュのユニフォームを着て気持ちのいい入場行進であった。選手諸氏のユニフォーム姿は非常にスマートにみえ、カッコよく見えた。

開会式の会長挨拶で、石川県医学会長は台風一過青空のもと……から始まって、毎年ケガ人があり、ケガのないように……といった後につけ加えた先生の言葉で「今日が幼少から青春血気多感な時期を過ごした釜石において、この大会を迎えることは当時を思い胸が温くなる気持ちで……」という感激的な言葉がとても印象的であった。

永年選手表彰では、当医師会より20年選手



永年(20年)選手表彰を受けた右より2番目が西島(背番号30)高橋牧(0)佐藤(1)の各選手

として佐藤郁郎先生、高橋牧之介先生、西島康之先生が、また35年選手として三善悟先生にそれぞれ表彰状とメダルが授与された。

次期開催地遠野市医師会長の挨拶があり、諸事連絡がありそれぞれ一回戦の会場地へと移動した。

◇ 第1回戦 (於新日鉄釜石球場)

	1	2	3	計
盛岡C	0	0	0	0
岩手郡	2	3	0	5

[岩手郡メンバー]

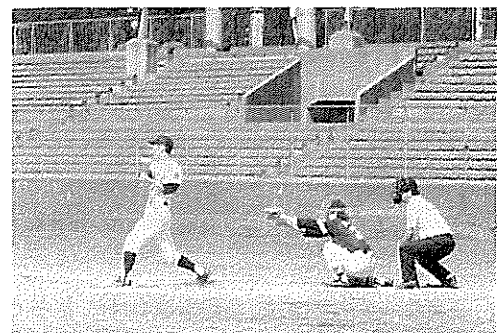
[盛岡C]

打順	位置	氏名	背番号
1	遊	篠村	(8) 二和田
2	左	上原	(25) 右肥田
3	捕	嶋	(15) 中遠藤
4	投	土谷	(36) 捕投岡田
5	三	高橋克	(20) 三鈴木
6	中	及川	(26) 遊三浦
7	一	西島	(30) 投左江藤
8	二	佐藤	(1) 左捕大沢
9	右	佐々木	(12) 一金沢

1回戦の行われた新日鉄釜石球場(小佐野町)は、かつて都市対抗野球で活躍した現野球解説者の山田久志氏(元投手、阪急ブレーブス、現オリックスブルーウェーブ)や、現ダイエーホークス足利豊投手、高島寛投手などが練習に明けくれた新日鉄釜石の専用球場であり、両翼92m中堅116mのスタンド付の

立派な球場で盛岡医師会Cチームと対戦した。

ジャンケンで負け、後攻となったが、1回、相手先頭打者を四球で歩かせた土谷選手はその後をピシヤリと押さえた。その裏、先頭の篠村は相手エラーで一塁に生き、その直後ベテラン金沢一塁手の隠し球にあい、アツという間にアウトの宣告。ベンチ内でも何が起こったのかという出来事であった。二番上原は今回新調したチタン製のバットを短くもってレフト前へ適時打。その後進塁し、貴重な先取点のホームを踏んだ。本人は「野球をやっ初めてホームを踏んだ」と、この他喜び、ガッツポーズのホームインであった。



初回クリーンヒットを放った上原選手

この試合相手守備陣の乱れにも救われたが、先発江藤投手を早々と当方の上位、下位打線とも打ち込みK. O. 2回から代わった二番手岡田投手をも打ち込み、土谷投手のコーナーワークをつく力のある投球と堅い内野の守り、特に三塁手高橋の再三にわたる好

守に助けられ、5-0の完封勝利であった。

この試合途中、高橋孝先生が遠路ベンチへ応援にかけつけてくれ、勝ちゲームを報告できて何よりであった。土谷選手も久々の完封に気をよくしてのぞんだ第2回戦であったが……

◇ 第2回戦 (於新日鉄釜石球場)

	1	2	3	計
花巻A	4	5	1	10
岩手郡	0	0	0	0

[岩手郡メンバー]

- 1 遊 篠 村
- 2 左 上 原
- 3 捕 嶋
- 4 投 土 谷
- 5 三 高 橋
- 6 中 及 川
- 7 一 西 島
- 8 二 佐 藤
- 代打 三 善
- 9 右 佐々木

代打 高橋牧

[花巻A]

- 二 徳 永
- 中 岩 渕
- 三 斉 木
- 右 遠 藤
- 左 青 山
- 投 織 笠
- 捕 三 浦
- 一 小 原
- 遊 工 藤

何せ2回戦の相手は昨年の準優勝チーム花巻Aチームである。体型は相じて似たようなガッシリとした体つきで若さがあり、走力があり、加えて腕力がありということで初回アツという間に無死で4点一気に得点されてしまった。1回戦に比べ、内野手を越してライナーで外野の左、中堅にバットのシンでとらえる、するどい当たりで、上位、下位打線ともにムラなく打ち込まれた。

わがチームも軟投の相手織笠投手の打たせて取るピッチングに、堅い内野の守備にはばまれて前の試合の如く塁を賑わすことなく無得点に押さえられ万事休す。

試合終了後釜石マリンホテルの懇親会場に移動し、当日のみ解放中の女湯に入って汗を流し、海の幸を食して国道45号宮古経由106号線にて帰宅の途についた。

今大会を振り返ってみると、釜石が会場という距離的なこともあってか、或は体調不十分、その他諸事情により予定されていた先生のうち数人が参加できなかったが、例年老いも若きも昔の気持ちを忘れずに参加される先生方もおられるわけで、年1回の「七夕野球」を楽しむことが、体力の限界を知る健康診断にもなるわけであり、また好天に恵まれたことが何よりの清涼剤ではないでしょうか。

最近のサッカーブームに便乗して(?)野球をやる人、野球に取りくんだことのある人、或は子供の頃から野球が好きだという若い先生方が少なくなっており、現有戦力からいかに一人でも二人でも欠員が出ないことを祈るのみである。その点今回は、シニアの大会に二人参加し、(高橋会長、三善先生)9人ぎりぎりでの初戦突破は大変な健斗といえるでしょうし、翌日の節々の痛みも考えずに走り回ったわけで、本当に御健斗御苦労さんと申し述べたい。

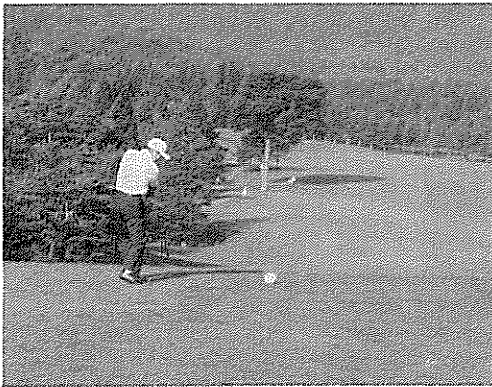


岩手郡チームの精鋭

第27回県医師会親睦ゴルフ大会

三善先生(シニアの部) 晴れの優勝

— H5. 9. 15. 於盛岡ハイランドC. C. —



会場となった盛岡ハイランドC. C. 西コース1番ホール

前日の大雨は全く考えられないような晴天に恵まれた(グランドコンディションは水気をたっぷり含んでいた)敬老の日の9月15日、盛岡ハイランドC. C. において、盛岡市医師会の担当で行われ、プレーの参加者は122名、招待参加9名、総勢131名であった。

例年に比べ欠席者も少なく、受付も早朝より開始され、3コース(東、南、西の各コース)よりスムーズに進行し、岩手郡医師会からも下記の方々が参加し、その結果、シニアの部で三善悟先生がグロス88、ネット72.4で優勝され、佐藤郁郎先生が第4位と健斗された。

今大会は年齢によりグランドシニア(67才以上)シニア(60~66才まで)壮年(50~59才まで)青年(49才以下)レディースの各部に分かれ、それぞれコースの選定もあってプレーのハンディはダブルベリア方式で行われた。

それと医師会と行政(岩手県)との連絡、親睦も密に行われるように(石川県医師会会長談)との配慮から、県当局より佐々木副知事、高橋出納長、上田総務部長、松本環境保健部長、橋田医療局長など他多数もコンペに招待

参加され、好天の中、和気あいあいプレーを堪能された。

各コースのうちショートホール(パー3)1ヶ所において、ワンオンしなかった人は罰として約1000円をチャリティとして寄付する取り決めがあり、これを医療・福祉に役立ててほしいと佐々木副知事を通じて県医師会より手渡された。

プレー中、盛岡市内のE先生がホールインワンを達成され、大変な騒々しさであった。

午後3時すぎより表彰式、懇親会が行われ、成績は次の通りである。

◆成績◆

◇シニアの部

順位	氏名	南	東	西	G	HD	NET
1	三善 悟	41	47		88	15.6	72.4
4	佐藤 郁郎	45	47		92	18.0	74.0
22	高橋牧之介	69		73	142	36.0	106.0

◇壮年の部

10	坂井 博毅	41		42	83	8.4	74.6
23	嶋 信	42		44	86	8.4	77.6

◇青年の部

7	土谷 正彦	43	46		89	15.6	73.4
---	-------	----	----	--	----	------	------



シニアの部優勝 三善悟先生(右)

左は石川県医会長



平成5年度郡市医師会広報委員・
いわて医報編集委員・健康教育委員合同協議会

日 時：平成5年7月17日（土）午後3時～5時
場 所：岩手県医師会館視聴覚室

○ 報 告

- (1) 第1回広報・健康教育担当理事打合せについて
- (2) いわて医報移動編集委員会について
- (3) 健康教育委員に対するアンケート調査結果について
- (4) 郡市医師会広報委員に対するアンケート調査結果について
- (5) その他

○ 協 議（平成5年度事業計画を中心に）

- (1) いわて医報の充実について
- (2) 郡市医師会広報委員との連携強化について
- (3) テレビ・ラジオ放送等の充実について
- (4) 県民健康講座の充実について
- (5) 県民健康教育センターの充実と効果的運営について
- (6) 会内並びに対外広報活動の積極的展開について
- (7) その他

上記合同協議会が、7月17日（土）県医師会館において行われ、広報委員として嶋信理事が、健康教育委員として岡本彰理事が出席した。例年それぞれの委員会は日程も別々に行われていたが、今回初めての合同会議となった。冒頭石川県医会長は、いわて医報は県医師会の顔であり、記録性、速報性に重きをおいて各担当者が日頃努力しているところである。また県民健康講座のテーマについて、

テレビ放送についてなどの意見を述べ、報告、協議へと進行した。詳細については「いわて医報9月号」を参照のこと。

尚、この中で議論となったのは県民健康講座のメインテーマと共通テーマは何にしたらいいかという問題提起であり、いろいろの課題が出されたが、平成5年度のタイトルは「くらしと健康——医療における今日的課題」共通テーマは「エイズ」と決定した。

(M. S記)

平成5年度岩手郡地区学校保健会研修会

期 日：平成5年10月23日(土)pm2：30～

会 場：盛岡地区合同庁舎8階会議室

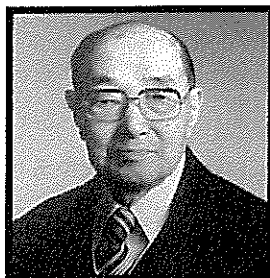
講 師：盛岡市働く婦人の家所長

亀 井 良 子 先生

演 題

『高令（化）社会に向けて』

（尚、内容については次号にて報告します）



小野寺素行先生に捧ぐ

初代の岩手郡医師会長をつとめられた玉山村好摩の小野寺素行先生(91才)は9月19日逝去されました。先生のご冥福を心からお祈り申し上げますと共に、ここに(いわて医報より転載)弔辞を捧げたいと思います。

尚、先生は生存者叙勲として昭和60年4月へき地診療の功績により勲四等瑞宝章を受賞されています。

弔 辞

本日、ここに、元岩手郡医師会長であられた、小野寺素行先生のご葬儀に当たり岩手郡医師会会員一同を代表して、お別れの言葉を申し上げます。

ご健在であられた先生は、9月16日の朝、急に健康を損なわれ、岩手医大に入院中のところ、19日午後11時19分、病魔はついに先生を奪うところとなり、不帰の客となって黄泉に旅立たれて仕舞いました。

ご霊前に、お別れの言葉を申し上げることになりましたのは、まことに悲しく残念なことであります。

先生は、九戸村出身で、仙台の第二高等学校理科より、昭和3年東北大学医学部をご卒業になり、母校の第一生理学第二内科学教室にて研鑽され、昭和20年岩手町で開業、昭和32年玉山村に移転され、地域医療のため尽力しておられたのであります。

医院開業以来、地域の医療に精励する傍ら、昭和23年、先生が音頭をとり新生岩手郡医師会を結成し、初代の医師会長として、長期にわたり私どもの医師会を築き育てて下さいました。

その間、先生は、岩手県医師会の理事、代議員など歴任され、診療の傍ら交通網未整備のなか、山間辺地医療確立に努められたほか、学校医として子供達の心身の育成にも尽力され、住民の皆様が安心して、望ましい医療を

受けることのできるような諸条件を整えることに尽力された、その功績は甚大であったと伺っております。

このような功績により、勲四等瑞宝章に叙され、また、多くの官公署、団体等より表彰状、感謝状を贈られ、引き続き奉仕に尽瘁しておられました。私など後輩は、直接先生のご指導ご助言を得る機会に恵まれませんでした。先輩の先生方から、先生の医師としてのあり方を伺いまして、深く感銘し、いつかは直接ご指導をいただく機会のあることを期待しておりましたのに、それができなくなりましたことは、じつに残念なことであります。

ご家族の方々のお悲しみも如何ばかりかと、お察しもうし、お慰めの言葉もございません。

今や、私たちは先生と、幽明境を異にすることになりましたが、先生のご意志を受け継ぎ、地域医療のため勤めることにいたします。そして、先生が築き育ててくださった岩手郡医師会を引き継ぎ、先生の精神を継承して行く覚悟であります。これが先生の、ご高恩に報いる第一の道であると思います。

先生、どうぞ、私たちを見守りながら、安らかにお眠りください。

先生のご冥福を衷心よりお祈り申し上げます、お別れの言葉といたします。

平成5年9月23日

岩手郡医師会長 高橋 牧之介

今日の話から

末期ケアの充実

高橋 牧之介

「ガンなどの難治性の疾患を患い、治療の見込がなく、死期が近い状態」で、治療より心身の苦痛や不安をできるだけ軽くして、残された人生の質（QOL）を高める援助に重点をおくケアが求められるケースが増え、組織的な対応が課題となっている。

末期医療の期間については議論があるが、厚生省の「末期医療に関するケアの在り方の検討会」がまとめた報告書では「痛みに対する対症療法や精神的・社会的支援をとくに必要とする六ヵ月間」とし、この間に必要なケアとして、1. 痛みの治療 2. 痛み以外の身体的症状のコントロール、 3. 精神面・生活面でのケア、 4. 家族のケア、が必要だと力説している。

末期医療を行う施設（ホスピス）では、これらへの対応のほか、心なごませる環境・雰囲気、家族や親しい人がともに過ごせる配慮、患者の私生活が尊重されること。在宅で行う

には、まず地域住民の理解が不可欠であり、その上で、在宅での治療技術、急変時の病診連携、介護力の確保、さらに相談窓口や費用負担の仕方を考える必要がある。

また、報告書は、ガンの告知の問題について「ガンであること」を告知することが、一般に問題として取り上げられているが、むしろ「患者に残された時間が限られていることを告げることに重要な意味がある」と指摘している。

〈ワンポイント〉

これまでのわが国の末期医療は、患者とケアする人との間に心を通わせて、患者の残りわずかな生活を支援することにより、器械や薬剤、技術の力を借りて、一日でも長く生命を保つことに力点があった。これを転換するには、何よりも、治療不能な患者に対するケアを重視する方向へ、教育の面なら改革していく必要がある。



第二回圭陵会岩手郡支部総会開催

圭陵会岩手郡支部代議員 上原 充 郎

去る10月2日(土)ホテル東日本において、圭陵会岩手郡支部(会員数84名)総会が、23名の出席のもと、谷口繁圭陵会幹事長、菅原教修圭陵会副会長の参加をいただき開催されました。和田栄吉支部長の60周年記念事業、学生教育、診療等々大学に対する要望を含む挨拶で総会は開催され、高橋牧之介先生の議長でスムーズに進行されました。

議 事

1. 岩手郡支部会則、及び決算
2. 創立60周年記念 館建設事業募金の納入について

平成3年6月の第1回総会の時に、懸案となっていた岩手郡支部会則は代議員の協力により作成され、以前に各会員に送付した通り

承認され10月2日より実施となりました。会計も同様に承認されました。

ひき続いて谷口、菅原両先生から、岩手医大創立60周年記念館建設事業募金の納入状況について説明があり、それによると、圭陵会員の今迄に寄付された総額は約7億4000万円(圭陵会員募金予定額40億円の18.5%)で、寄付希望申し込み件数は910件で、全会員数約64,500人とすれば1.41%に相当するとのこと、まだまだ不足している。そして出来るだけ多くの会員の寄付の御協力を下さるようにとのことでした。

今回の総会は日本ロシュ(株)の協賛により懇親会も行われ、歯科、医科合同の楽しい会であったことを報告致します。

岩手郡医師会役員会

日 時：平成5年7月31日(土)

場 所：ホテルメトロポリタン盛岡

出席者：高橋牧、高橋孝、上田、佐藤
坂井、西島、根本、岡本、
及川、嶋、篠村、上原、
佐々木、和田、高橋克

- いわて医師協同組合より八木理事長、小野寺専務理事、若山常務理事の3名が参加され事業の現状報告

○ 連絡事項

- 1) 感染性廃棄物の処理について
- 2) 救急の日の行事について
- 3) その他

〈会員入会〉

荻生 博子 H5. 8. 1 滝沢中央病院へ
 高橋 暁 H5. 8. 1 東八幡平病院へ
 遠藤 哲夫 H5.10.1 滝沢村菓子へ開業
 (H. 5.11月より)

〈会員退会〉

吉田 徹 H5. 3.31 盛岡市医師会へ
 千葉 泰男 H5. 7.31 仙台市医師会へ
 小野寺素行 H5. 9.19 死 亡

編集後記

○7月初めにオープンした岩手町沼宮内の石神の丘石彫公園は、10月に開かれる国民文化祭いわての会場の一つともなっているが、その中で、人体を模したもの、バラバラに組み合わせたようなもの、裸体のもの、母体内の胎児を思わせるようなものなど多数の作品の中に人間をテーマにしている作品群も数多く見られる。

国道4号線沿いにあるので一見の価値があると思います。通りすがりに立寄って見てはいかがでしょうか。

○県医師会野球大会（於釜石市新日鉄釜石球場）については、1回戦の相手は盛岡市医師会C（開業医）チームとの対戦でしたが、わがチームは年1回の実戦にしてはバットに当たったというのが実感でしょう。土谷投手が頑張り、よくも無得点に押え、そのほか野手の懸命な守りで勝ちとったようなものでした。そして

迎えた2回戦の相手花巻Aチームは、昨年の準優勝チームでもあり、個人個人がよく野球を知っておりバットの真芯で当てる打法と腕力をもっているチームで、全く手が出なかった。確か佐藤先生のヒット1本に押えられてしまった。(?) また来年の遠野大会で有力な新人の到来を待つことになろう。乞う御期待。

○また9月15日に行われた県医師会ゴルフ大会（於盛岡ハイランドC. C）においては高橋郡医会長も参加され大いに健闘された。

岩手郡からは今回はシニアの部に上位入賞者が出た。次回は北上医師会の担当とのこと、多数のゴルフ愛好者の参加を望む次第である。

○「おらほの先生」は今回は休載となりますので御了承下さい。

(M. S記)

